

「原子力フォーラム茨城」報告書

日時：令和2年1月18日（土）13：30～16：30

場所：千代田テクノルコンベンションセンター（茨城県大洗町）

内容：一般の方々は、小泉元首相の発言など原子力情報の大半をマスコミによって提供されているため、再生可能エネルギーがあれば原子力は不要であるとか、原子力は「トイレなきマンション」の迷惑施設である、と思われる傾向にある。しかし、「原発ゼロ」で地球、日本、そして私たちや子供達の将来の暮らしは本当に大丈夫なのか？ また、原子力のゴミ（高レベル廃棄物）は解決できないほど厄介者なのかを、原子力専門家から講演してもらい、意見交換する。

第1部：基調講演 「原発ゼロ」は可能か？

講師：奈良林直東京工業大学先導原子力研究所特任教授

第2部：講演 高レベル放射性廃棄物の地層処分について

講師：加来謙一原子力発電環境整備機構技術部課長

第3部：総括討論会

参加者：149名（主催者、スタッフを含む）

配布資料：

- (1) [講演資料]：「原発ゼロ」は可能か？
- (2) [講演資料]：高レベル放射性廃棄物の地層処分について
- (3) アンケート用紙

報告事項：

1. 開催挨拶等；

田山東湖原子力国民会議茨城支部代表から、昨年6月の支部設立以降の主な支部としての活動や本フォーラム開催の趣旨を説明した。宮健三原子力国民会議代表理事から、立地地域の活動を原動力にして原子力を国民の手に取り戻す運動の活性化を図りたい旨挨拶があった。上月良祐参議院議員から、軸がぶれないように原子力問題に取り組む旨の挨拶があった。

2. 第1部：基調講演 「原発ゼロ」は可能か？

奈良林東工大特任教授

以下の4点のテーマで、日頃マスメディアで報道しない事実を紹介し、原子力の必要性・重要性を訴える講演であった。

- 1) 気候変動をやめて気候危機と呼ぶのはなぜ？
- 2) 多発する大停電で脱・脱原発って本当？
- 3) 再生可能エネルギーで本当に大丈夫？

4) 原発の安全対策はどこまで進んだのか？

結論としては、以下の点を強調された。

- ①地球の環境危機の時代にあつては、原発を止めると人類や生物の存続にかかわる将来的な危機をもたらす。
- ②再エネを火力発電所と抱き合わせで使うとCO₂は減らない。
- ③太陽光があれば原発いらぬは嘘。原発は必要。
- ④フランスやスイスでは米 TMI やチェルノブイリ原発事故の教訓を活かして冷却源の強化やフィルターベントを設置し、米国では津波や洪水の対策をとっていた。
- ⑤原子力発電所の保全活動は原発の健康管理。
- ⑥高経年化対策は、プラントの若返りとリニューアル。対策が済んだプラントは「リニューアルプラント」と呼ぶべきであり、「老朽化」と言うのは間違い。

3. 第2部：講演 高レベル放射性廃棄物の地層処分について

加来原子力発電環境整備機構課長

以下の4点のテーマで、地層処分にあまりなじみのない方にも理解しやすいよう、基本となる概念図やデータを示すとともに、安全性についての考え方、ガラスやオーバーパックスの長期健全性の実例を示した説明であった。また、科学的特性マップやフィンランドでの処分事業状況を紹介して、今後の処分事業の展望を示す講演であった。

- 1) 原子力発電所からの放射性廃棄物の種類と処分法は？
- 2) 万年オーダーの安全性をどのように証明するのか？
- 3) 日本での今後の処分の進め方は？
- 4) 諸外国での実施状況はどうなっているか？

4. 総括討論会

参加して頂いた県議から意見表明を頂いた。

5. フォーラム終了後の懇親会（意見交換会）

約50名が参加して、フォーラムの感想や今後の支部活動について意見交換を行うとともに、ネットワーク作りに向けた懇談を行った。

アンケート結果

主な結果は、

- ・参加者149名中アンケート回収数は92名（男性88名、女性4名）
- 回収数での年齢構成：40代21%、50代23%、60代34%、70代12%

回収数での職業：電力 13%、メーカ 10%、研究所 25%、その他 28%

- ・ 1 部講演は、非常に興味ある 56%+興味ある 43%=関心度 (99%)
よく理解できた 46%+理解できた 47%=理解度 (93%)
- ・ 2 部講演は、非常に興味ある 49%+興味ある 50%=関心度 (99%)
よく理解できた 51%+理解できた 46%=理解度 (97%)

アンケート結果では、いずれの講演も、関心度が 99%であり、非常に高い数字であった。興味ある講演をして頂いた両講師に感謝申し上げます。また、理解度も 93%、97%と極めて高い値であり、分り易い講演資料に基づく、説得力のある講演であったと評価できる。

・ 1 部と 2 部合わせた講演時間 3 時間については、22%が長い、70%が丁度良いとの結果であった。どの職業層を対象にするかで反応も異なると推定されるので、今後の参考にしたい。

・ 質疑応答については、実質的な質疑がなかったため、48%が無回答。質問票を利用するなどの改善を検討していきたい。

・ 1 部の講演について、残念ながら音量が低く聞き取れなかったとの指摘があり、今後改善すべき点である。

⇒別紙 参照

企画者としての感想

原子力に関する閉塞状況は依然として厳しいものがある。それを打破するため、マスメディアで報道されていない事実を、多くの方、とりわけ政策決定に近い議会関係者、発信力が停滞している原子力事業に係わっている方々に聴いて頂くとともに、さらに地元住民にもフォーラムに参加してもらうことを期待していたが、ほぼ初期の目標である 150 人規模を達成することができた。また、それらの参加者からは、講演内容が極めて説得力ある内容であったとの感想を頂き、その内容を関係者の周辺の方々に普及したいとの希望もあった。

奈良林教授の講演は、原子力を止めると温暖化や大規模停電のリスクが増大することを印象づける説得力ある講演であった。

また、加来課長の講演は、地震や火山の多い日本でも地層処分が安全に実施できることを示す論理的な講演であった。

今後、このフォーラムで得た情報は、幅広く利用して頂けるよう、フォーラム参加者をキーパーソンにしながら、普及していく計画である。また、今回は準備期間が短かったことや東海村議員選挙前日であった関係から参加できなかった方もいるので、参加者をさらに増大する方策を検討・実行していくことが課題である。

情報の普及との観点から、一方的な講演は好ましいものではなく、参加者がネットワークを構成し、それを拡大する仕組みが構築されなければならない。

その観点から、奈良林教授から提案された、フォーラム終了後の懇親会（意見交換会）は、貴重なものであった。理解は、情報よりも人間を通して得られるものであり、その人間のネットワークづくりを支援することも本事業に位置付けていくことも考慮して頂けることを祈念している。

【開催の様子】

フォーラム会場の全体像



田山東湖原子力国民会議茨城支部代表の挨拶

奈良林東工大特任教授の講演



奈良林東工大特任教授の講演

加来 NUMO 課長の講演

